

# 2009年度エコノメトリックスII&上級エコノメトリックスII

## 第6回宿題解答例

2009年11月27日

### Q. 3.2

(3.16) 式の大数の法則を中心化した変数 (centered variables)  $x_t - \mu_t$  について表すと、

$$\text{plim}_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{t=1}^n (x_t - \mu_t) = 0$$

となる。ところで、 $\mu_t$  は非確率変数であるから、上式は

$$\text{plim}_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{t=1}^n x_t - \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{t=1}^n \mu_t = 0$$

となるので、求めようとする式はここから自明。

### Q. 3.8

$A$  は  $k \times k$  の正値定符号行列 (positive definite matrix)。いま  $R$  を  $R^2 = A$  となる  $k \times k$  の対称行列とする。また  $z$  を  $R^{-1}z = x \neq 0$  となる非ゼロベクトルとする。このとき、正値定符号行列の定義より

$$x'Ax = z'R^{-1}AR^{-1}z = z'z > 0$$

これより、

$$\begin{aligned} x'(I - A)x &= z'R^{-1}(I - A)R^{-1}z \\ &= z'R^{-2}z - z'z \\ &= z'(A^{-1} - I)z \end{aligned}$$

したがって、 $(I - A)$  が正値定符号であれば  $(A^{-1} - I)$  も正値定符号。逆も同様に成立。 QED  
次に  $A - B$  が正値定符号行列であれば、

$$\begin{aligned} x'(A - B)x &= z'R^{-1}(A - B)R^{-1}z \\ &= z'(I - R^{-1}BR^{-1})z > 0 \end{aligned}$$

ゆえに、 $I - R^{-1}BR^{-1}$  も正値定符号行列。このとき前段の性質から  $RB^{-1}R - I$  も正値定符号行列。

$$z'(RB^{-1}R - I)z = x'(B^{-1} - A^{-1})x > 0$$

よって  $B^{-1} - A^{-1}$  は正値定符号。逆も同様に証明。 QED

### Q. 3.10

(3.33) 式より、 $\text{Var}(\hat{\gamma}) = \mathbf{w}'\text{Var}(\hat{\beta})\mathbf{w}$  である。(3.24) 式から、この二次形式は

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k w_i w_j \text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_j) \quad (Q3.10 - 1)$$

と等しくなる。

しかし  $\text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_i) = \text{Var}(\hat{\beta}_i)$  かつ  $w_i w_i = w_i^2$  なので、この式は

$$\sum_{i=1}^k w_i^2 \text{Var}(\hat{\beta}_i) + \sum_{i=1}^k \sum_{j \neq i} w_i w_j \text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_j) \quad (Q3.10 - 2)$$

と等しい。

さらに、共分散行列が対称であるから、 $\text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_j) = \text{Cov}(\hat{\beta}_j, \hat{\beta}_i)$  である。これにより、(Q3.10-2) 式の第 2 項は

$$2 \sum_{i=2}^k \sum_{j < i} w_i w_j \text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_j) \quad (Q3.10 - 3)$$

と表すことができる。

$\sum_{i=2}^k \sum_{j < i}$  を明示的に表現すると、 $\sum_{i=2}^k \sum_{j=1}^{i-1}$  になるので、(Q3.10-3) を書き換えると、(3.68) 式が得られる。